

情報文化学部の教育を支える3つの方針

※ 情報文化学部は平成 28 年度入学者を最後に学生募集を停止したため、「名古屋大学の教育を支える3つの方針(<http://www.nuqa.nagoya-u.ac.jp/policies/>)」のページには情報文化学部の3つの方針は掲載されていません。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

情報文化学部は、以下の基準にそった学力及び資質・能力等の卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授けます。

情報文化学部の学位は、真の情報リテラシーを備え、システム思考を基に人類の課題に取り組むことが出来る次のような資質・能力等が培われたことを証します。

- 1) 情報のスキルとセンス
- 2) 人間への深い理解
- 3) 全体を見通す力

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

情報文化学部においては、全学教育科目は、全学基礎科目、文系基礎科目、文系教養科目、理系基礎科目、理系教養科目、全学教養科目から自然情報学科は、54 単位以上、社会システム情報学科は、46 単位以上修得します。専門系科目は専門基礎科目、専門科目、関連専門科目、卒業研究からなります。専門基礎科目から 36 単位、専門科目から 42～52 単位、関連専門科目から 2～12 単位の合計 90 単位以上を修得します。専門科目には、卒業研究 6 単位が含まれます。卒業要件は、自然情報学科、合計 144 単位以上、社会システム情報学科、合計 136 単位以上を修得し、かつ卒業研究の審査に合格することです。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報文化学部では、文理の壁を越えて専門知識をつなぎ、新たな価値の創造を目指す「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」で掲げた資質を共通して涵養するために、次のとおり教育課程を編成します。

- 1) 両学科に共通する専門基礎科目群では、基盤となる（00 系）科目として「人類生存のための科学」を置いています。
- 2) 「情報のスキルとセンス」、「人間への深い理解」、「全体を見通す力」を教育目標に掲

げ、これに対応する形で、「情報のスキルとセンスを身につける」(01系)科目、「人間・文化・世界を理解する」(02系)科目、「広い視野で現象を捉える」(03系)科目を番号を付して配置することで、体系的に科目編成しています。

3) 専門基礎科目及び専門科目で培った情報学と科学的知識を人と人、分野と分野を繋げる媒介型知力に転化させることで、情報と文化のスペシャリストとして、人類や社会の課題に挑む人を養成しています。

4) 卒業研究を必修としています。

情報文化学部では、基本的な能力として、論理的思考力、人工言語リテラシー、自然言語リテラシーの3本柱を重視し、これらが個人の能力の基盤になるという考えに基づいて全学教育科目に加えて、上記のような学部に共通の科目(専門基礎科目、および、学部共通の専門科目)、学科ごとの専門科目、関連専門科目、卒業研究で教育課程を編成し、これらを実施することによって、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた3つの資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

情報文化学部は、知的好奇心に溢れ、確固とした基礎学力と論理的な思考を身につけて、情報を活用して、人類の課題の解決に挑む意欲を持った人、また、環境学や情報科学などの新しい分野の学問を創造したい人を求めています。